

久留米市セーフコミュニティ現地審査 スケジュール

	平成30年7月30日（月）	平成30年7月31日（火）
9:00		
		活動視察 9:30~10:50 ⑦防犯対策委員会 【コミュニティワ-上津校区会館】
10:00	10:00~11:00 ①市の概要説明 SCの取組み 【久留米市庁舎401会議室】	
11:00	11:20~12:20 ②交通安全対策委員会 【久留米市庁舎401会議室】	11:20~12:20 ⑧DV防止対策委員会 【久留米シティプラザ中会議室】
12:00		
	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00		
	13:30~14:30 ③高齢者の安全対策委員会 【久留米市本庁舎401会議室】	13:30~14:30 ⑨学校安全対策委員会 【久留米シティプラザ中会議室】
14:00		
	活動視察 15:00~16:30 ④防災対策委員会 【久留米広域消防本部 消防防災センター】	14:50~15:50 ⑩児童虐待防止対策委員会 【久留米シティプラザ中会議室】
15:00		
		審査員ミーティング
16:00		16:30~17:30 審査員講評 (久留米市SC推進協議会) 【久留米シティプラザ大会議室】
17:00	17:00~18:00 ⑤自殺予防対策委員会 【久留米シティプラザ中会議室】	
18:00		
	18:20~19:20 ⑥外傷等動向調査委員会 【久留米シティプラザ中会議室】	
19:00		
20:00		

久留米市セーフコミュニティ 外傷等動向調査委員会

発表日 2018年7月30日
発表者 外傷等動向調査委員会 委員長
所属 久留米大学 足達 寿

1-1.外傷等動向調査委員会の設置

SC認証センターが示す「セーフコミュニティ7つの指標」より

指標
4

あらゆる入手可能な「根拠」に基づいた仕組み

指標
5

外傷の頻度と原因を記録する仕組み

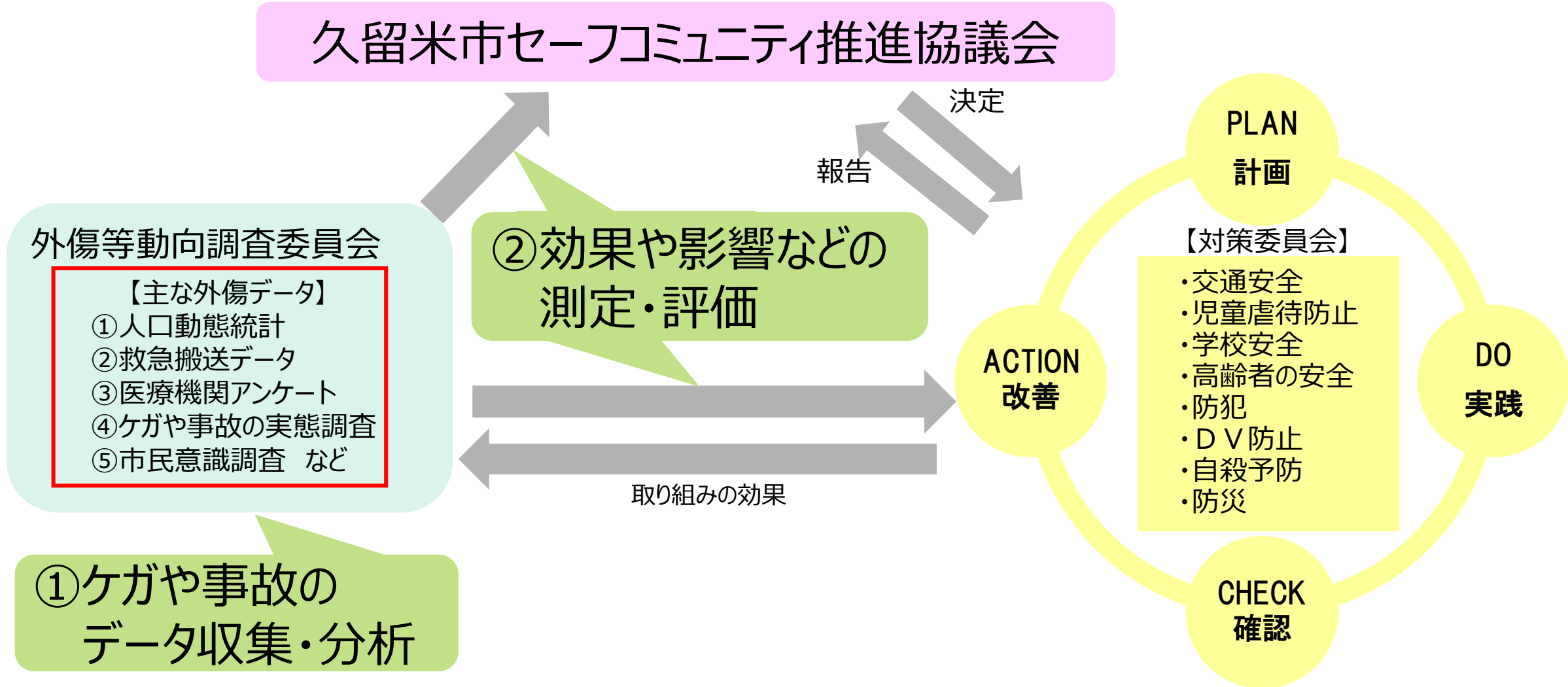
指標
6

取り組みの内容・過程・変化による効果を測定・評価

ケガや事故に関するデータ収集や発生動向の分析を行ない、取り組みの効果や活動の質を高めるための助言や評価を行う必要がある。

外傷等動向調査委員会の設置

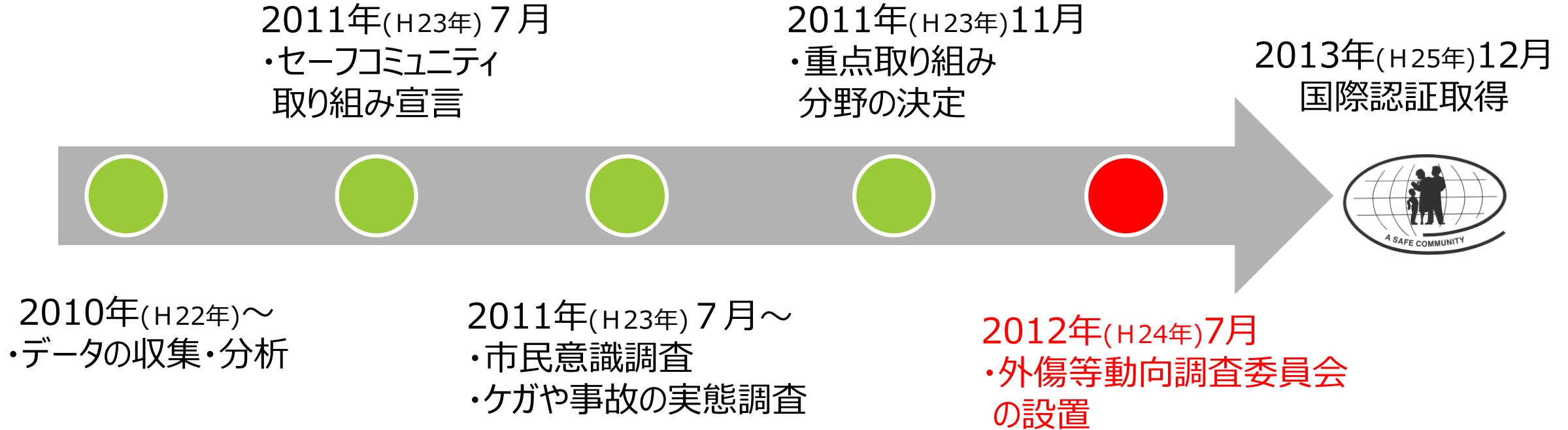
1-2.外傷等動向調査委員会の位置付け



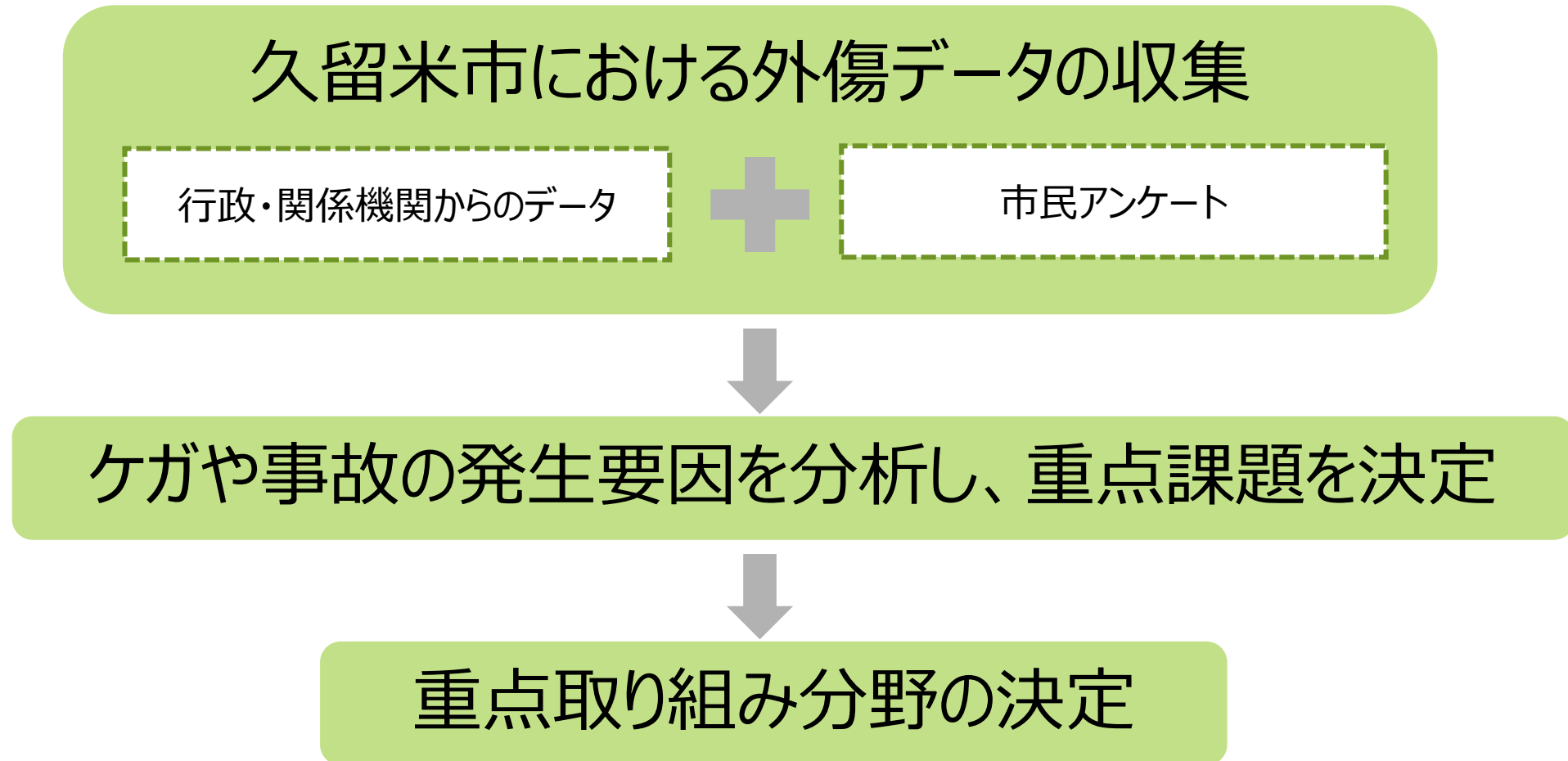
1-3.外傷等動向調査委員会の構成メンバー

区 分		所 属
医療機関	1	久留米大学 医学部教授
	2	一般社団法人久留米医師会 理事
	3	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院救命救急センター長
関係機関	4	久留米広域消防本部 救急防災課長
行政機関	5	久留米市保健所 所長
	6	久留米市協働推進部 部長

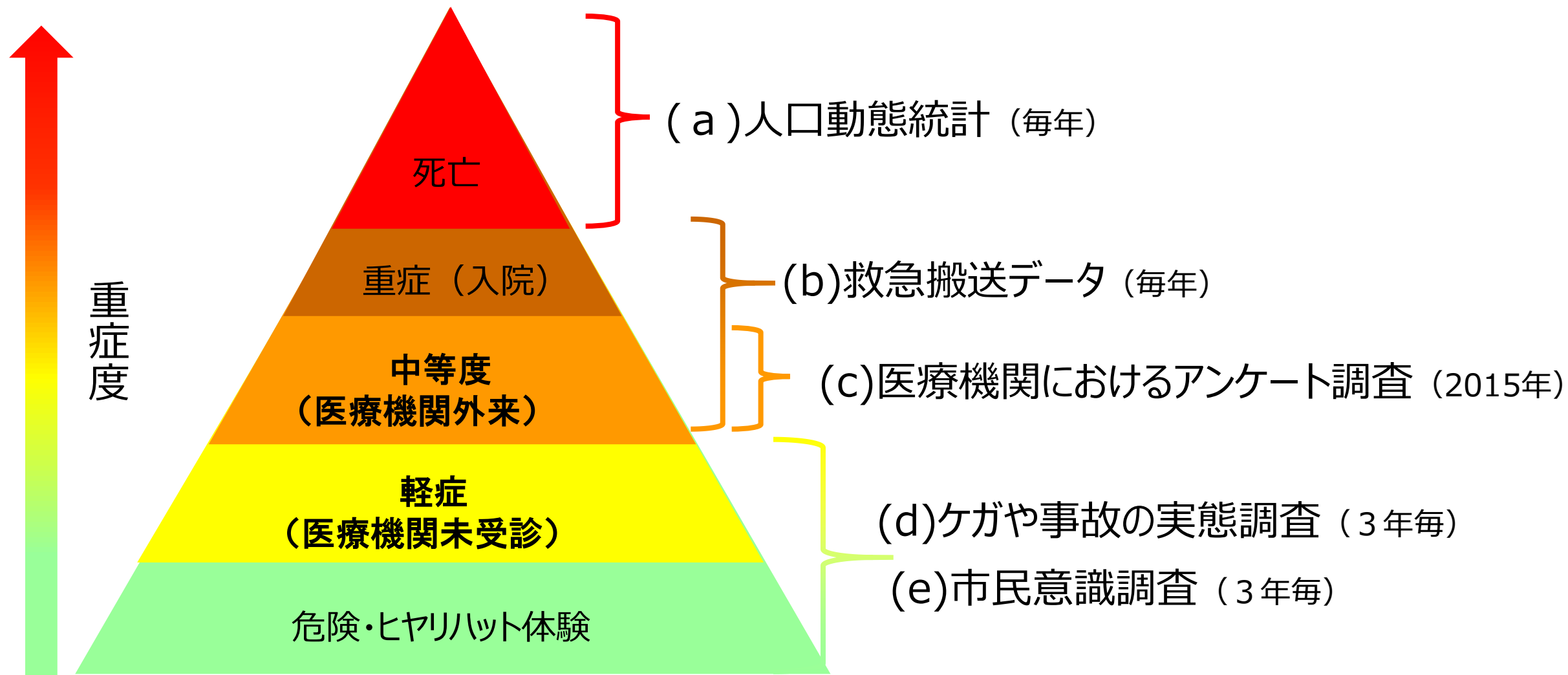
1-4.外傷等動向調査委員会設置までの取り組み経過



2-1.データ収集から重点取り組み分野決定までの流れ



2-2.外傷の頻度と原因を記録する仕組み



2-3.外傷データ収集と活用状況

対策委員会	外傷等動向調査委員会で収集・分析					各対策委員会で収集・分析												
	(a) 人口動態統計	(b) 救急搬送データ	(c) 医療機関のアンケート	(d) ケガや事故の実態調査	(e) 久留米市民意識調査	警察統計	自転車の安全利用に関するアンケート	次世代育成に関するニーズ調査	家庭子ども相談課集計データ	福岡県久留米児童相談所集計データ	学校災害給付請求データ	保健室けが調べ	生徒への安全アンケート調査	高齢者実態調査	長寿支援課統計資料	男女平等推進センター相談の状況	男女平等に関する市民意識調査	厚生労働白書
交通安全	●	●	●	●	●	●	●											
児童虐待	●	●	●	●	●			●	●	●								
学校の安全	●	●	●	●	●						●	●	●					
高齢者の安全	●	●	●	●	●									●	●			
防犯			●	●	●	●												
DV防止	●	●	●	●	●				●							●	●	
自殺予防	●	●	●	●	●													●
防災		●	●	●	●													

2-4.外傷発生状況(重点課題の設置背景)



SCの取り組みを開始した
2011年当時の状況だよ!

図1 出典：人口動態統計 2007年(H19年)～2011年(H23年)

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水 2	交通事故 1			
10～19歳	自殺 8	交通事故 5	転倒・転落 1		
20～29歳	自殺 38	交通事故 7	溺死・溺水 4	煙・火 1	
30～39歳	自殺 59	交通事故 6	中毒等 4	転倒・転落 2	他殺 1
40～49歳	自殺 59	交通事故 6	中毒等 3	溺死・溺水 2	転倒・転落 1
50～59歳	自殺 86	交通事故 13	溺死・溺水 9	窒息 7	その他不慮の事故 6
60～69歳	自殺 56	溺死・溺水 14	交通事故 12	窒息 10	転倒・転落 7
70～79歳	溺死・溺水 44	自殺 40	窒息 26	転倒・転落 25	交通事故 17
80～89歳	溺死・溺水 55	窒息 47	その他不慮の事故 28	転倒・転落 24	自殺 21
90歳～	転倒・転落 23	窒息 22	溺死・溺水 11	その他不慮の事故 8	交通事故 6

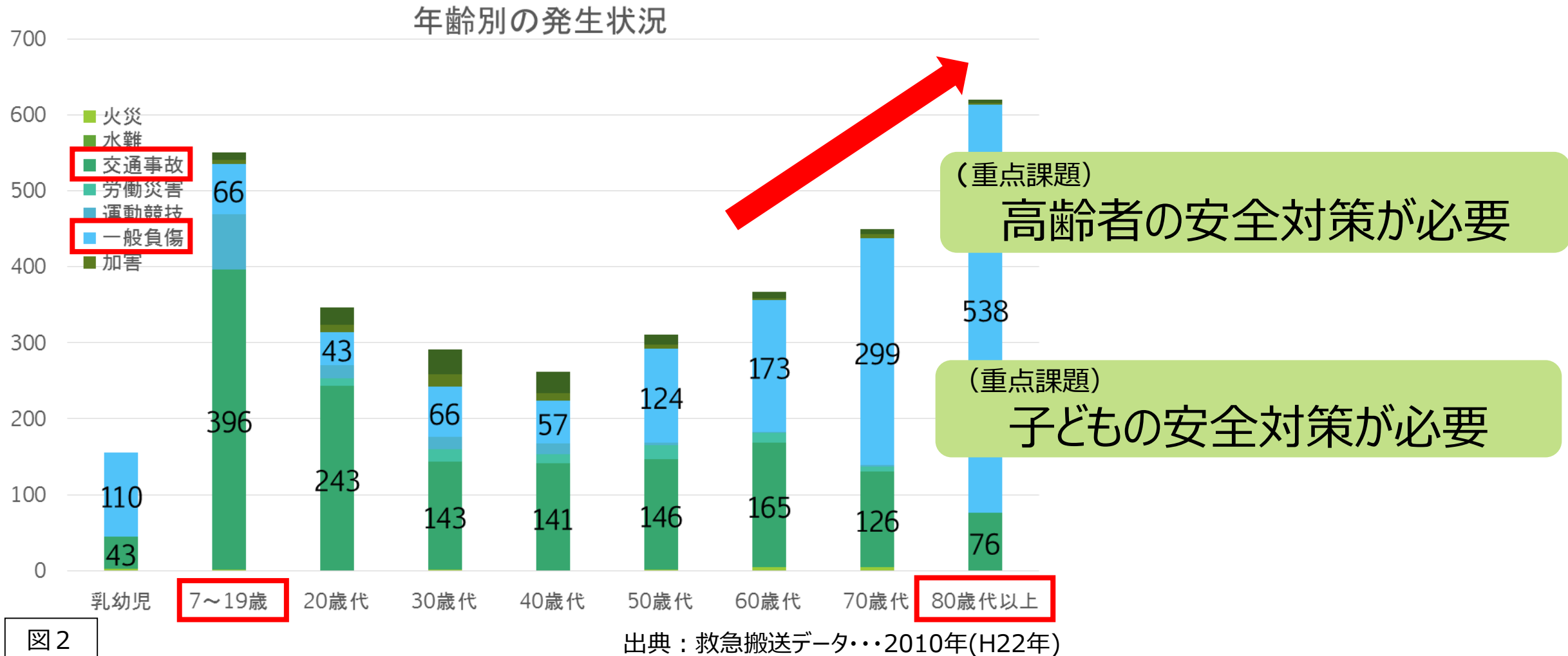
(重点課題)

自殺予防の取り組みが必要

(重点課題)

交通安全の対策が必要

2-5.外傷発生状況(重点課題の設置背景)



2-6.外傷発生状況(重点課題の設置背景)

Q.普段生活する中で不安を感じることは何ですか？

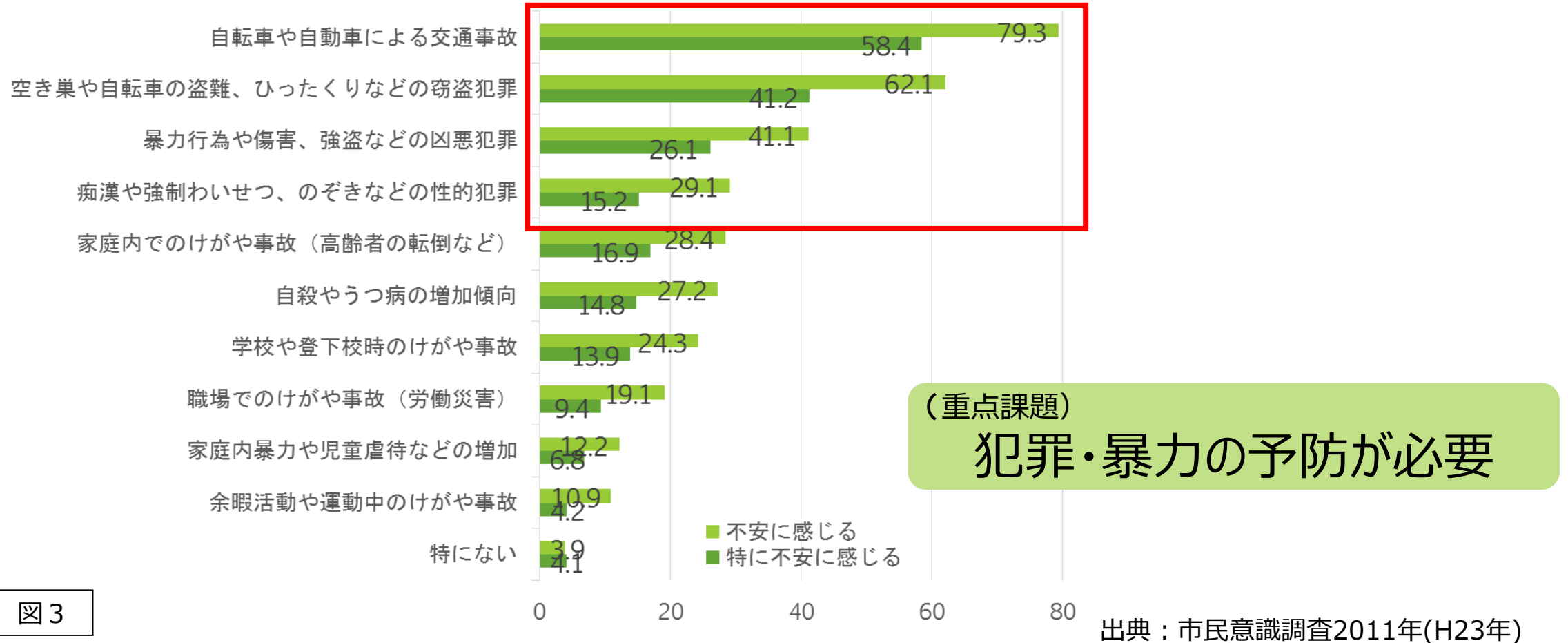


図3

2-7.外傷発生状況(重点課題の設定背景)

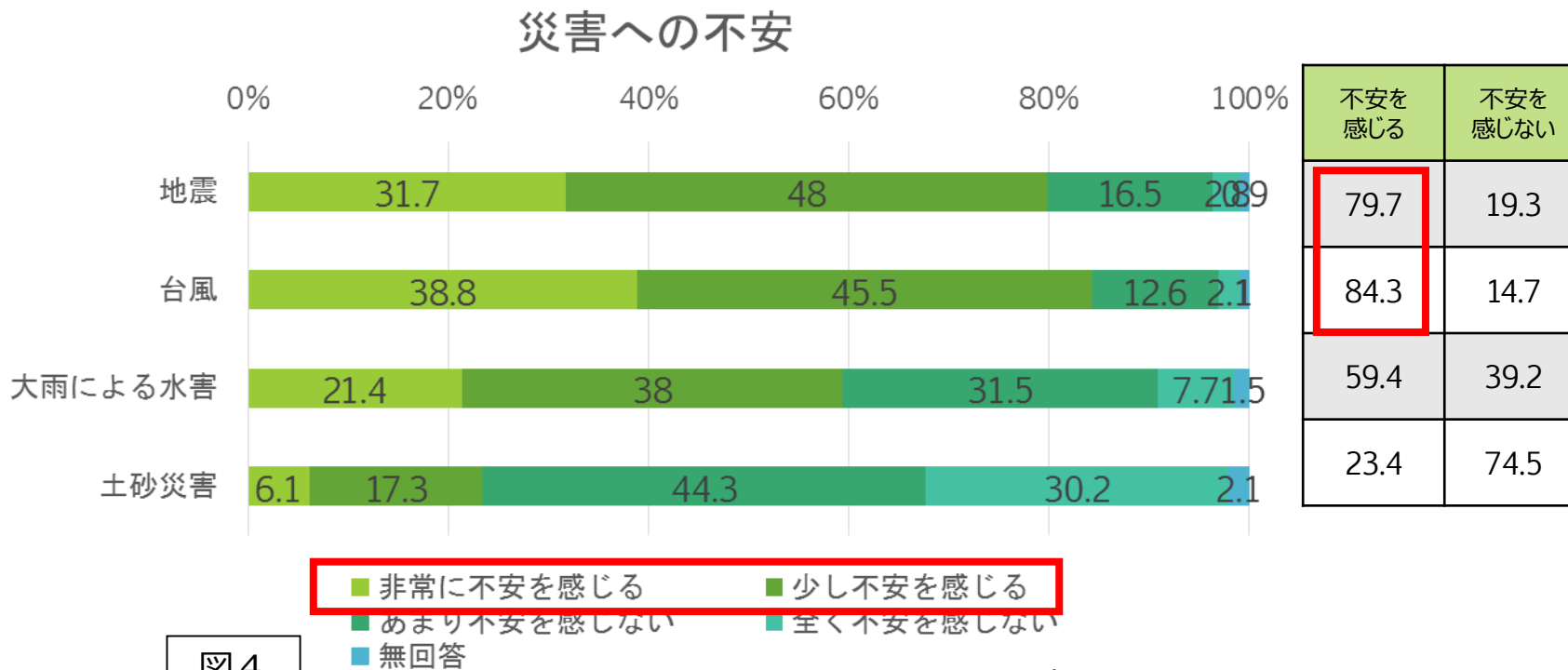


図4

出典：市民意識調査2011年(H23年)

(重点課題)
防災対策が必要

2-8.久留米市セーフコミュニティの重点取り組み分野

交通安全

(方向性)
交通事故を減らす



子どもの安全

(方向性)
子どものケガや
事故を予防する



高齢者の安全

(方向性)
高齢者のケガや
事故を予防する



犯罪・暴力の 予防

(方向性)
犯罪・暴力を予防する



自殺予防

(方向性)
自殺者をなくす



防災

(方向性)
災害に備える



3-1. 取り組みの経過(認証取得後から再認証現地審査まで)

回数	開催日	主な協議事項
第6回	2014年5月	医療機関による外傷発生調査の実施について、けがや事故の実態調査について 各対策委員会の活動状況について
第7回	2015年2月	外傷データの収集・分析及び活用について、各対策委員会の取り組み状況及び課題について 市民意識調査・けがや事故の実態調査について
第8回	2015年7月	外傷発生状況を把握するための調査の実施について
第9回	2016年5月	医療機関による外傷発生調査の結果について、これまでの取り組みに関する効果確認・改善について
第10回	2016年10月	再認証に向けた重点取り組み分野・項目・具体的施策の見直しについて
第11回	2017年4月	「久留米市のSCに関する実態調査」について、事前指導について
第12回	2017年7月	「久留米市のSCに関する実態調査」について、事前指導について
第13回	2017年10月	再認証事前指導
第14回	2018年2月	事前指導講評への対応について、「久留米市のSCに関する実態調査」結果の活用について
第15回	2018年4月	「溺死・溺水」に関するデータ収集・分析及び対応について、SC再認証本審査について

3-2. 認証取得後の取り組み内容

① ケガや事故のデータ収集・分析

- ケガや事故に関する外傷データを収集する
- 発生要因（原因・場所・症状など）について検証・分析する

② 効果や影響などの測定・評価

- 対策委員会の取り組みについて、成果指標（短期・中期・長期）で効果を確認する
- 測定・評価にあたり必要となるデータを収集・分析する

3-3. 認証取得後の新たな問題(データ収集・分析)

1

データの精度（正確性）を高める

- 【例】 2013年に、日時・性別・年齢をもとに「医療機関から提供されたデータ」と「救急搬送データ」を試験的に連携。氏名・住所などの個人情報が含まれないため、連結データに正確性がなかった。また、連携作業に時間と労力を要した。
- 【例】 3年毎に実施している「ケガや事故の実態調査」は、過去に起きた内容を調査するため、回答者の記憶が曖昧であった。

2

活動指標に活用できるデータの収集

- 【例】 児童虐待・高齢者虐待・DVなど発生状況や頻度など、外傷データだけでは、把握できないものがあった。

新たなデータ収集が必要

3-4. 認証取得後の新たな問題(効果や影響などの測定・評価)

1

セーフコミュニティの取り組みを開始してからの総括的な効果確認が必要
(2011年→2016年までの5年間)

毎年、各対策委員会では取り組みの実績をもと、効果、課題・改善などを行っており、取り組みを開始してからの5年間の効果(課題)確認を行う必要があった。

2

重点取り組み分野・項目・取り組みの検討

5年間の効果確認を踏まえ、重点取り組み分野や各対策委員会の取り組みの見直しを行い、更なる効果を図っていくが必要あった。

5年間の効果確認・今後の取り組みの検討が必要

3-5.問題解決のための方向性

新たなデータ収集

新

- ①「医療機関におけるアンケート調査」の実施
- ②「ケガや事故の実態調査」の見直し

改善

5年間の効果確認・
今後の取り組みの検討

新

- ③ 5年間の総括
- ④ 対策委員会との更なる連携

強化

4-1.問題解決に向けた新たな取り組み

【①医療機関におけるアンケート調査実施までの流れ】

セーフコミュニティ先進自治体の事例研究



データ収集に向けた具体的内容の協議
(調査方法・質問項目・時期・対象者など)



2015年に実施

- ・整形外科、外科などの5医療機関で実施。
- ・3ヶ月で261回答



4-2.問題解決に向けた新たな取り組み

調査時の工夫した点

記入する手間を省
き、負担軽減

【患者側】

- これまで収集した外傷データの分析結果をもとに、回答が多い順に質問項目を記載
- 記述式ではなく番号からの選択式

【医師側】

- 傷病名と傷病部位を分けて選択式

久留米市 セーフコミュニティ外傷発生調査 調査票 (医師用)

久留米市では、事故やけがを予防するセーフコミュニティ活動を進めており、医療機関のご協力を得て、原因を含む外傷の発生状況について調査を実施しております。この調査結果は、専門家による分析を踏まえ、事故やけがの予防対策に活用してまいりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

ご協力いただける場合には、表裏は両面を、裏面に印刷によるご記入をお願いします。(受診者の付き添いの方の記入しても構いません。)この調査票では個人情報は保護していません。また、結果は統計処理をいたしますので、個人が特定されることはありません。なお、記入が難しい項目については、当欄のままで結構です。

※ 本日()年()月()日

① けがをした場所

場所	道	橋	駅・公共施設	久留米市内・久留米市外	久留米市内・久留米市外
----	---	---	--------	-------------	-------------

② いつけがをしましたか?

③ けがをしたとき、何をしていますか? (○で囲んで、具体的な内容を書いてください。)

④ けがをした原因、きっかけは何ですか? (○で囲んで、具体的な内容を書いてください。)

⑤ その結果、どのようにけがをしましたか? (○で囲んで、具体的な内容をお書きください。)

⑥ 受けたけがに関連したモノがあれば、それは何ですか? (○で囲んで、具体的な内容をお書きください。)

⑦ けがをしたとき、何らかの安全策がとられていましたか? (○で囲んで、具体的な内容をお書きください。)

医師記入欄

医師氏名: _____

またる診療科

1. 内科	2. 整形外科	3. 形成外科	4. 脳神経外科	5. その他
-------	---------	---------	----------	--------

傷病名の高い順に、上位3つの傷病名と傷病部位の番号をご記入ください。

傷病名	傷病部位
1	
2	
3	

傷病名	傷病部位
1. 骨折	9. 全身
2. 創傷	17. 顔面(顔部)
3. 挫傷・擦傷	18. 頭部
4. 内臓損傷	19. 頸部・首頸部
5. 関節損傷	20. 胸部
6. 開放創	21. 背脊・手足
7. 閉鎖創	22. その他
8. 閉鎖創	23. その他
9. 全身	24. 頭部
10. 顔面(顔部)	25. 頸部・首頸部
11. 頭部	26. 胸部
12. 頸部・首頸部	27. 背脊・手足
13. 胸部	28. その他
14. 背脊・首頸部	29. 頭部
15. 胸部	30. 頸部・首頸部
16. その他	31. 背脊・手足
17. 顔面(顔部)	32. その他
18. 頭部	
19. 頸部・首頸部	
20. 胸部	
21. 背脊・手足	
22. その他	
23. その他	
24. 頭部	
25. 頸部・首頸部	
26. 胸部	
27. 背脊・手足	
28. その他	
29. 頭部	
30. 頸部・首頸部	
31. 背脊・手足	
32. その他	

結果記入欄

1. 治療不要	2. 即日治療完了	3. 緊急入院
4. 入院	5. 転院へ入院	6. その他

4-3.問題解決に向けた新たな取り組み

調査の結果

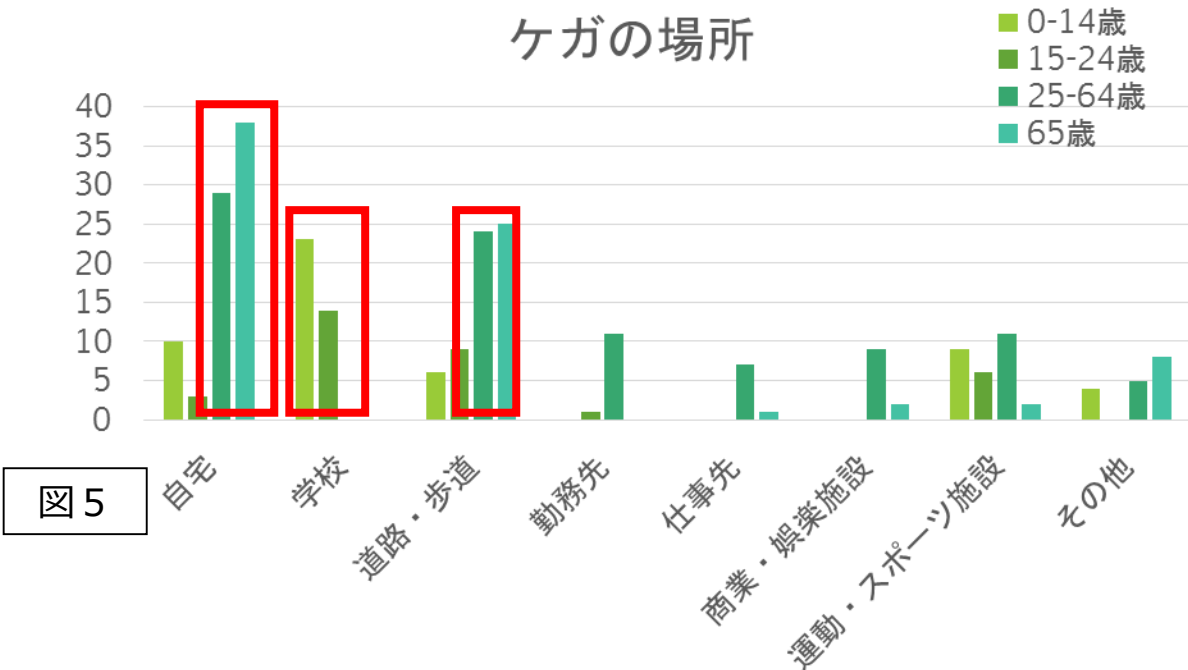


図5

子どもは「学校」、高齢者は「自宅」「道路・歩道」が多い

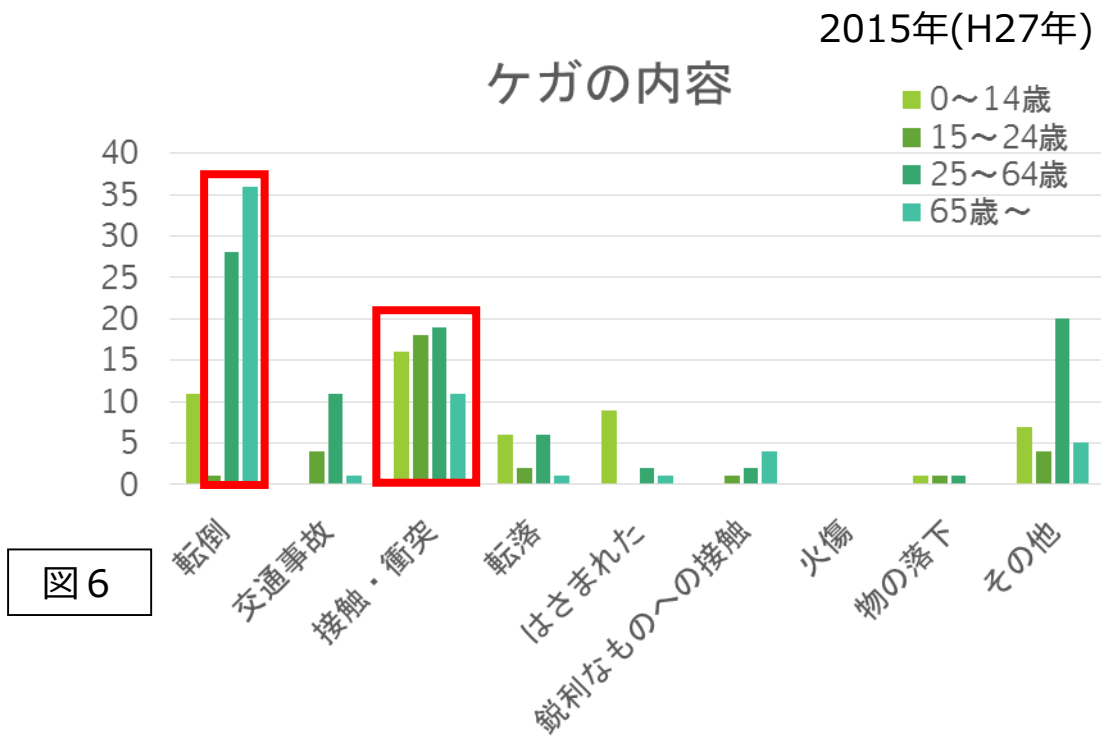
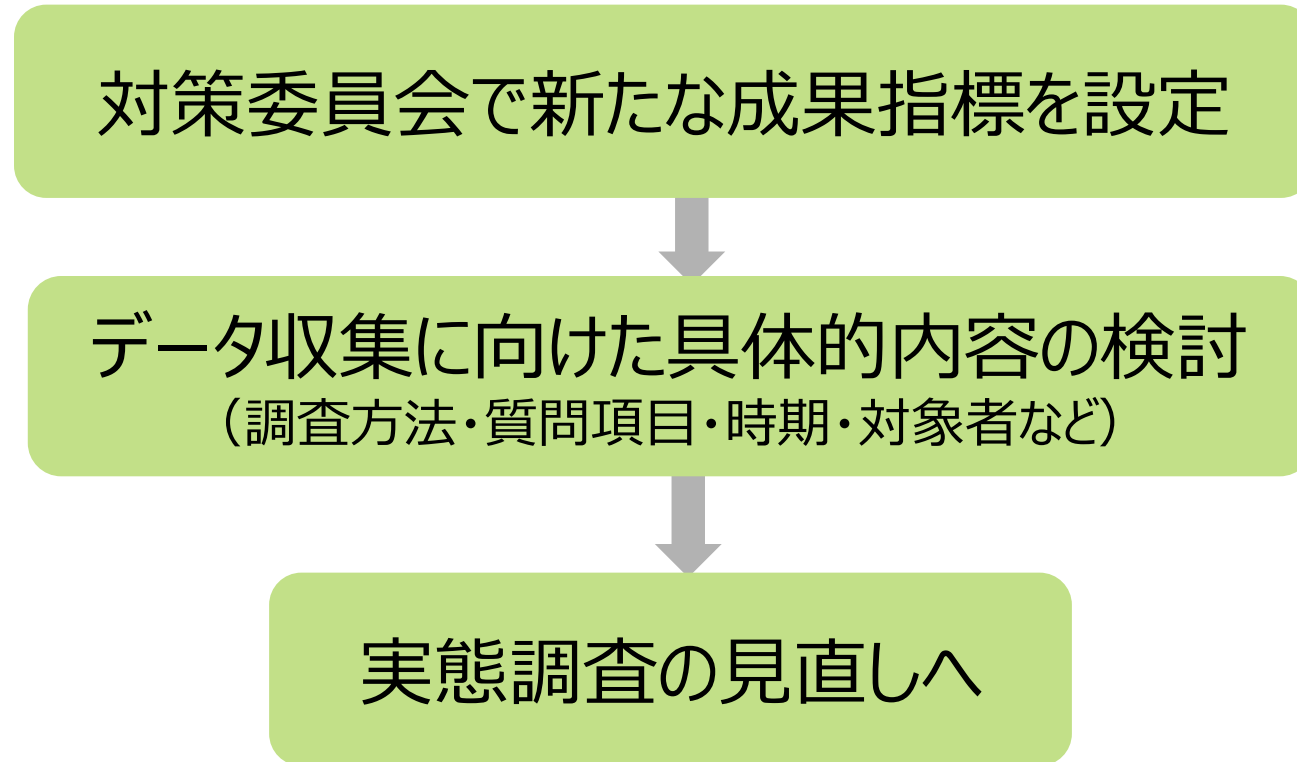


図6

高齢者は「転倒」、「接触・衝突」はどの年齢層にも多い

5-1.問題解決に向けた新たな取り組み

【②ケガや事故の実態調査の見直しまでの流れ】



5-2.問題解決に向けた新たな取り組み

見直した点

成果指標（短期・中期・長期）
にリンクする質問へ

実施年	2011年(H23年) 実施	2014年(H26年) 実施	2017年(H29年) 実施
調査名称	ケガや事故の実態調査	ケガや事故の実態調査	セーフコミュニティ実態調査
対象期間	過去3年間のケガや事故	過去1年間のケガや事故	過去1年間のケガや事故
調査対象者	市内の満20歳以上の人	市内の満20歳以上の人	①0歳～17歳の人 ②18歳～64歳の人 ③65歳以上の人
回収率	57.0%	56.0%	57.3%

短縮

全ての年齢層をカバー

6-1.問題解決に向けた新たな取り組み

【③ 5年間の総括の流れ】

これまで収集・分析した外傷データの整理

```
graph TD; A[これまで収集・分析した外傷データの整理] --> B[5年間のケガや事故の発生件数・発生要因について検証・分析]; B --> C[対策委員会と情報共有];
```

5年間のケガや事故の発生件数・発生要因について検証・分析

対策委員会と情報共有

6-2.問題解決に向けた新たな取り組み

5年間の成果

交通安全

自転車事故件数

減



子どもの安全

ケガの発生件数
※上津小学校

減



高齢者の安全

認知症サポーター
養成講座の受講者数

増



犯罪・暴力の予防

一般刑法犯認知件数

減



自殺予防

自殺者数

減



防災

自主防災訓練参加者数

増



重点取り組み分野の継続

7-1.問題解決に向けた新たな取り組み

【④対策委員会との更なる連携】

【外傷からのアドバイス 1】

対策委員会ごとに「安全マップ」を作成しているが統合できないか

【交通安全対策委員会】
交通安全マップの作成

+

【防犯対策委員会】
安全マップの作成



安全安心マップ



【外傷からのアドバイス 2】

対策委員会で色が異なる啓発リボンを作成している

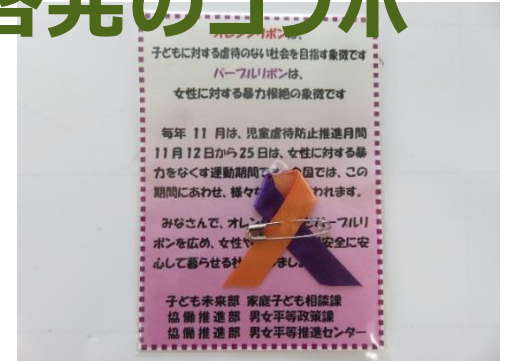
【DV防止対策委員会】
パープルリボンキャンペーン

+

【児童虐待防止対策委員会】
オレンジリボン作成



リボン・啓発のコラボ



取り組みの向上

7-2.問題解決に向けた新たな取り組み

見直し結果

重点6分野の継続を踏まえ、外傷データ結果や各対策委員会が独自に所有するデータを分析し、5年間にわたる取り組みの効果測定を行った。

2011年度(H23年度)～2016年度(H28年度)

分野	項目	対策委員会の取り組み
6	10	48

2017年度(H29年度)～

分野	項目	対策委員会の取り組み
6	10	42

新規・・・4
削除・・・4
拡充・統合・・・16

8-1. 2017年 事前指導後の新たな取り組み

2017年10月の事前指導で、審査員より「高齢者の溺死・溺水」への対応について助言をいただく。



プレゼン資料9ページ
「人口動態統計」

①「溺死・溺水」のデータ収集・分析

第14回（2018年2月開催）・第15回（2018年4月開催）の本委員会で、2012年から2016年の「人口動態統計」と「救急搬送データ」を収集・分析

図7

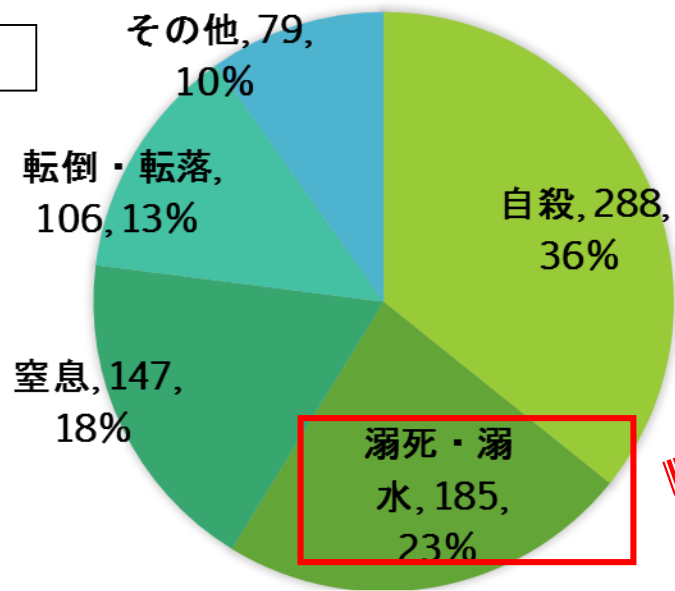
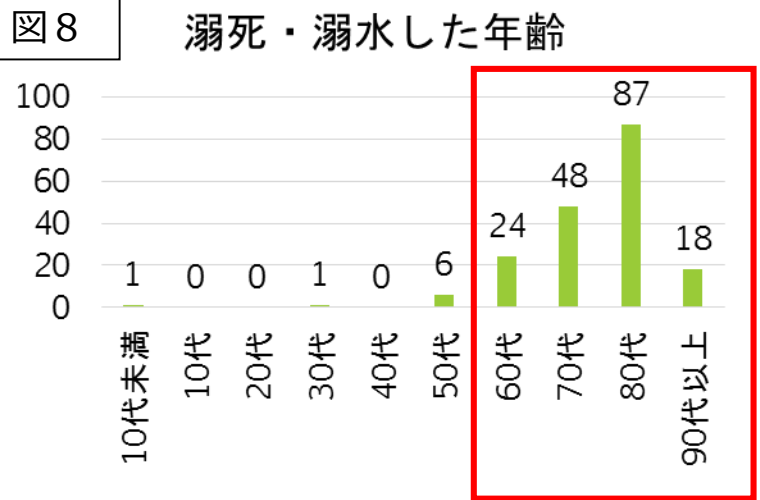


図8



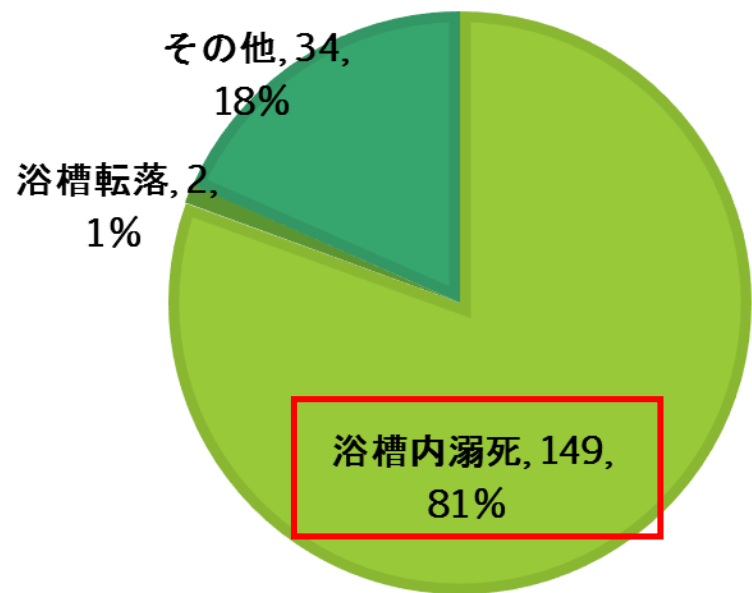
9割が高齢者

166人が65歳以上

出典：人口動態統計 2012年(H24年)～2016年(H28年)

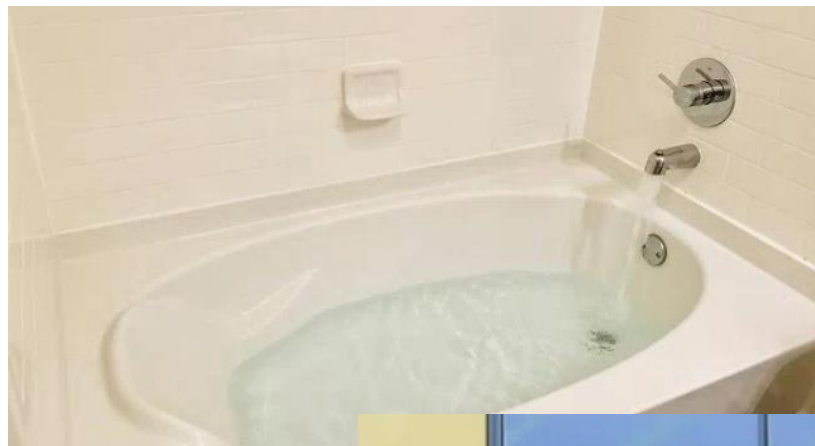
8-2. 新たに収集した「高齢者の溺死・溺水」のデータ

図9 溺死・溺水した場所

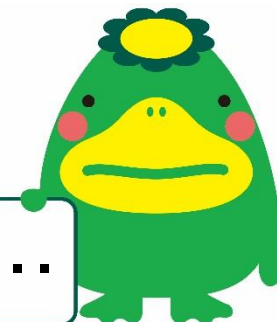


149人が浴槽内
8割が家庭内の浴槽

出典：人口動態統計 2012年(H24年)～2016年(H28年)



日本では…



お湯をはった浴槽に入り、
体を温める習慣がある。

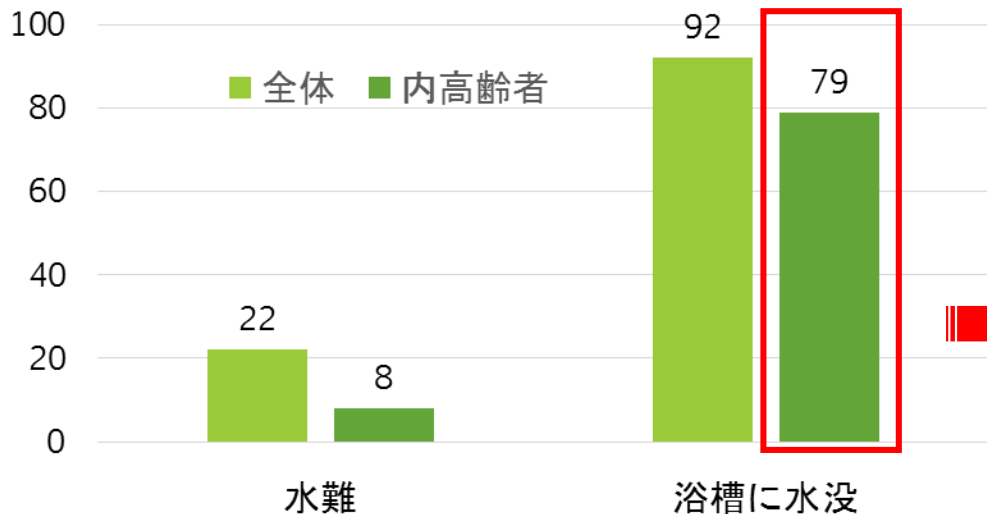


8-3. 新たに収集した「高齢者の溺死・溺水」のデータ

出典：救急搬送データ 2012年(H24年)～2016年(H28年)

図10

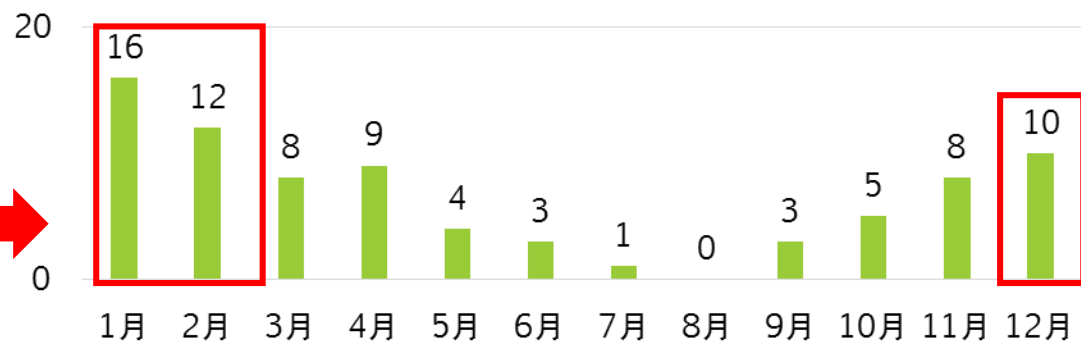
溺死関連で救急搬送された人



79人が65歳以上
8割が高齢者

図11

浴槽に水没した時期



79人のうち38人12月から2月
救急搬送される時期は冬

高齢者の安全対策委員会へ情報提供

高齢者の安全対策委員会で
現在検討中

9-1.外傷等動向調査委員会設置の効果

外傷について専門知識を有する者の参加

- ・アンケート調査など、傷病名・発生状況など、より専門的視点での質問項目を設定することができた。
- ・医療機関の協力のもと、アンケート調査を実施することができ、外傷の頻度と原因を記録する仕組みを構築がすることができた。



より専門性の高い外傷データを収集・分析が可能になった

9-2.外傷等動向調査委員会設置の効果

対策委員会の垣根を越えた包括的な視点でのアドバイス

- ・対策委員会の取り組みを情報共有化することで、対策委員会や分野を越えて取り組みの見直しを行うことができた。



より効果的な取り組みへと改善することができた

10-1.現時点での課題と解決に向けた方向性

1

「市民アンケート」の調査時期・質問項目の重複

【例】

「市民意識調査」と「ケガや事故の実態調査（現：セーフコミュニティ実態調査）」は、実施年が同じであり、質問項目も類似しているものがある。（3年毎に実施）

	実施年	質問項目
市民意識調査	2017年6月	(防犯)「自転車ルールを知っているか」 (防災)「避難所の場所を知っているか」
ケガや事故の実態調査 (現：セーフコミュニティ実態調査) ※	2017年8月	(防犯)「自転車での交通事故にあったことがあるか」 (防災)「災害時一人で避難できるか」

※2017年より名称変更

調査の統合

- ・過去の調査結果を分析し、それぞれの調査の目的・質問項目を整理する。
- ・取り組み（活動指標）に反映させやすい調査時期などを整理する。

10-2.現時点での課題と解決に向けた方向性

2

短期間では成果（効果）が出にくい分野への対応

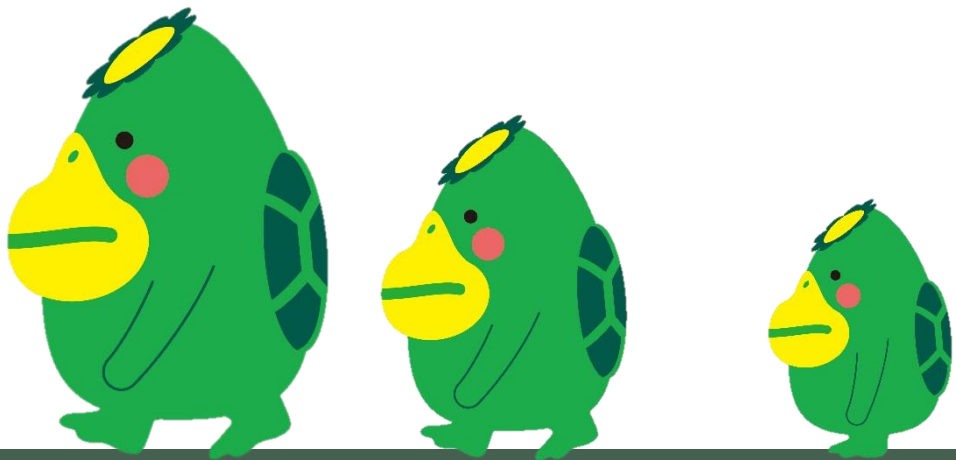
【例】 児童虐待・高齢者虐待・DVなど、短期間では数値的な成果（効果）が出にくい。長期的な視点で成果を出すことや、数値以外で効果確認を行う必要がある。



取り組みの質的評価

数値だけで、成果（効果）を図るのではなく、虐待やDVに対する市民の意識の向上や、相談窓口の充実など「被害が起こらない環境づくり」を推進する。

ご清聴ありがとうございました。



外傷等動向調査委員会